

## 第 16 部 ソフトウェアの購入

ソフトウェア工学の全体の領域を定義している「ソフトウェアエンジニアリング基礎知識体系 (SWEBOOK V3.0)」には、「ソフトウェアの購入」についての記述はない。

しかし実務上非常に重要な文書である ISO/IEC/IEEE 12207 : 2008 (JIS X 0160 : 2011) にも、それをベースにした日本での情報システムの開発などについてのバイブル「共通フレーム 2013」にも、「取得プロセス」が明確に位置づけされていて、実際は「ソフトウェアの開発」に並ぶ重要な作業であることを示している。

「購入」というと例えば ERP パッケージを入手するような、既に完成したソフトウェアを入手するだけの作業のように見える。それも、重要な「購入」の行動の 1 つである。しかしソフトウェアの購入を「共通フレーム 2013」では「取得プロセス」と呼んでいることが示すように、新しいソフトウェアを委託開発して入手することも、広い意味での「購入」の一部である。今は多分ビジネス・アプリケーションは完全な自社開発よりも、一部でも委託開発の要素が入った開発の方が多い。それだけ今の企業群がソフトウェアの購入に使用するマンパワーや金額は大きく、「購入」は重要な作業であることを示している。

ソフトウェア購入の目的は、必要な要件を満たすソフトウェアを、自社開発よりも早く、安く、容易に入手することにある。そのために成すべき事柄は多く、複雑である。

第 38 章では、このソフトウェアの購入について議論する。第 16 部は、この第 38 章だけから構成される。

